

気がつけば40年間無職だった。

もしくは潔癖ひきこもり女子の極私的物語



気がつけば〇〇シリーズ第3弾は

まさかの `ノン、お仕事ノンフィクション！

主人公は、生まれてから一度も働いたことがない!?

「私は40年間、一度も働いたことがない。」

中年無職女性が解き放った衝撃的な一文。

潔癖が過ぎるがゆえに自分の部屋に入ることができない、

強迫性障害を患う女性の艱難辛苦、ほとぼしる生き様を凝縮！

いじめ、不登校、潔癖症、父からの虐待……。

父「学校に行くと言え！」

母「死にたい？ 一緒に死のうか？」

私「最終的に父を殺さなければいけない」

この家族、何が起きるか予測不能!!!!!!!

「神戸連続児童殺傷事件」の犯人と同じ14歳、地下鉄の駅でパニック→柱に頭を打ちつける、悪魔に憑かれた映画『エクソシスト』のリーガンのように暴れる、初体験はスリランカ人、父が自己破産して家との強制別離、平山夢明の『独白するユニバーサル横メルカトル』との出会い、障害年金の受け取り方、30歳年上の男性と援助交際？、仲良しの姉にも精神障害が、気になる我が家の家計簿公開、脳梗塞で倒れる父……etc.

次々に起きる事件や、飛び出す名言&迷言に、ページをめくる手が止まらない！

自分の部屋に入るためのルール

その手順が潔癖&厳格すぎて

自分の部屋に戻れない！ ってどゆこと!?

暴力や言葉の暴力で否定され続けた10代、若さを生かすことなく無為に生を貪った20代、そんな日々を経ながら様々な精神疾患が発症した彼女は、30代に入ると、突如、「学校に行きたい」と考え始める。親子ほどに年の離れた同級生たちと過ごす初めての楽しいスクールライフ。仲間とのふれあい、文化祭や作文コンクールへの出場、遅れてきた青春は彼女の精神にいったいどんな効果をもたらすのか――!?

「友だちがいないので友だちになってください」

「気がつけば29年間、処女だった。」

「やはり、30代就労経験なし、は大きなハンデなのだ」

「お前は苦勞をしていないから若く見られるんだ」

「あのとき、本気で殴ってはいなかった」

貧困や介護が引き起こす親族間殺人だけでなく、インターネット社会化によって“家族のカタチ、が崩壊しつつある昨今、核家族すらままならない現代において、家族の在り方とはなんなのか？ を提起する、祈りのノンフィクション！

無職で生きてきた後悔は拭いさることはできないが、とはいえ、本書が出版されることで、晴れて人生初の“給料、を手にすることになる作者・難波ふみ。

これにて40年間無職は打ち止めか!?

「もし、私と同じような不安と恐怖に襲われている人がいたら、怖がらずに病院に行ってみて欲しいと思う。考えこんでいるより、自分を楽にしてあげられる方法がいくつもあるということに、きっと気がつくと思うから。そして、私と同じく通院しながら闘病している人には、本当に、うんざりするよね、と笑いかけたい。でも、一步を踏み出したあなたは偉いのだと、自分で自分を褒めてあげて欲しい。それくらいしたってバチが当たらないくらい、私たちは頑張っているのだから……。」(本文引用)

現代社会に“生きづらさ、を感じる全ての人に捧ぐ！

気がつけば40年間無職だった。

2024年3月4日(月)、ひな祭りの翌日発売！

古書みつけ <https://kosho-mitsuke.com/>